

ブレインインターフェースとその応用、機知の仕組み

ブレインインターフェースは、機械において、音声を文字列に表示するには、まず、音声を音階の7階層に分解して、その上に、大脳基底核を経由する共振回路の共鳴を使って、唇の動きのデータを電気信号に変えて、この2種類のデータから、音声を文字列に表示する。頭頂葉から大脳基底核を経由する体感触覚によるデータを使って、そのデータをイメージと言語と文字列に変えて、画像処理を使って、動的に映像やページを処理する。例えば、Wordのページをめくったりする。

ASを頭頂葉から大脳基底核を経由するデータを電気信号に変えて、機知の仕組みを担う第32, 33野を経由するドーパミンがそれぞれの役割をする共振回路の共鳴を使って、血液のリボ核酸のヘリコバクターがこの共鳴する共振回路に接続して、ASを動かす。

$$H_n = \sigma(E_n) \times \sigma(K_n), e_n = f^{-1}(x)xf(x), e_n = \ker f \oplus \operatorname{im} f, H_n^2 = ||ds^2||, = H_n \times K_n$$

$$E_n = \sigma(K_n) \times \sigma(H_n), \pi(\sigma_1, \sigma_2) = \frac{d}{df} F(x)$$

$$x\Gamma(x) = \pi(\sigma_1, \sigma_2) - (8\pi G \left(\frac{p}{c^3} + \frac{V}{S} \right))$$

$$= 2 \int ||\sin x||^2 d\tau$$

$$= 4 \int ||\sin x \cos x||^2 d\tau \rightarrow 4V = g_{ij}^2$$

固有エントロピー = 原子の固有エントロピー - 3次元多様体のエントロピー

ブレインインターフェースの大脳基底核の固有エントロピー値